

低学年でのICTを活用した伝えあう活動の具体的展開

ー2年生活科・学級活動「お祭りの準備をしよう」の実践からー

熊本県人吉市立西瀬小学校 教諭 池本 有美

yu-ikemoto@kumagawa.net

キーワード：ICT活用、書画カメラ、電子黒板、タブレットPC、2年生

1. はじめに

第2学年生活科の学習指導要領では、「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができること」が新設され、身近な人との関わりや交流を通して、言語活動を充実させることが求められている。また、学級活動においても、国語を中心とした各教科等の指導で身につけた言葉を、的確に理解し表現する能力等を実践的に活用していくことが重要である。

一方、児童のICT活用では、ICTの基本的な操作能力を高めるだけでなく、児童がコミュニケーションを図るための道具（ツール）として、効果的にICTを活用していくことが求められている。

これらのことから、本実践では、子どもたちがICTを活用した「伝え合う活動」をテーマとして設定し、ICTを活用した言語活動の充実を図ることとした。特に、実物投影機や電子黒板を活用して、祭りに対する子どもの思いや願いを共有できる場面を設定し、祭りなどの学校外の行事と教室での学習活動をICT活用によって関連づけるようにした。

2. 主眼点について

2.1 単元について

【学年・教科等】小学校2年 生活・学級活動

【単元の目標】

「お祭りの計画を立て、目的をしっかりとって意欲的に活動に取り組むことを通して、生活上必要な習慣や技能を身につけることができる。」

2.2 実践の流れ

学習活動	ICT活用等
1 お祭りをを行うことを話し、学習の見通しを立てる。	デジタルカメラ
2 低学年合同でお祭りについて話す。	
3 どんなお祭りにしていきたいか話し合いをもつ。	ペア発表 電子黒板
4 お店のグループごとに計画を立てる。	書画カメラ
5 お店を作り、お神輿を作る。	
6 リハーサルを行う。	グループ活動 タブレットPC
7 お祭りをする。	デジタルカメラ
8 振り返りをする。	電子黒板

3. 実践の要点

3.1 話し合い活動でのICT活用

(1) 隣どうしでの伝え合い

「お祭りの準備をしよう」という話し合い活動の中で、児童のICT活用を行った。議題は、「どんなお神輿を作るか」「どんなお店を出すか」である。

まず初めに、いきなりICTを活用した発表を行うのではなく、自分で考えたお神輿の絵を使って隣同士で向き合って伝え合うようにした。（写真1）

これによって、おたがいに発表への自信を付けるとともに、発表意欲を高めることができた。



写真1 隣同士での伝え合い場面

(2) 書画カメラによる「ペア発表」

全体での発表場面では、二人1組となったペアで、発表させるようにした。一人は、書画カメラを使いながら発表内容を描き加えていくようにし、もう一人は、拡大提示している画面上の御輿の設計図を指し示しながら発表をさせた。

子どもたちは、互いに協力しながら、拡大提示した内容に直接書き込んだり、画面上で指し示したりすることができ、ペア発表によって、学級全体での話し合いに、全員が集中して参加することができた。（写真2）

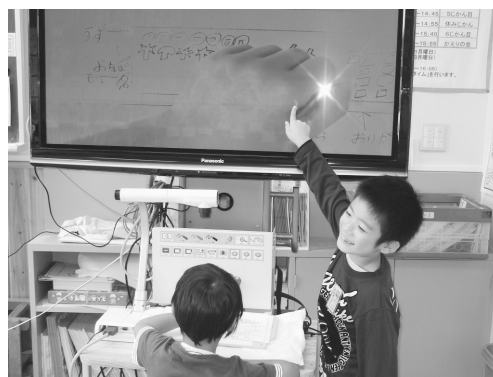


写真2 書画カメラ・電子黒板を使ったペア発表

3. 2 I C T 活用と体験活動

(1)「祭りリハーサル」での活用

グループごとにお神輿やお店を作り始めて、準備が整ったグループから祭りのリハーサルをさせた。

リハーサルでは、子どもたちが言葉だけでは伝わりにくいようにしていたので、タブレットP C を使って撮影し、それを一緒に見ながらアドバイスするよう指導した。

子どもたちは、一人ひとりに視点を合わせながら撮影し、タブレットP C を用いたため、デジタルカメラとは違い、シャッターチャンスを逃すことなく撮影することができた。

子どもたちは写真を止めながら、「もっと前でお客さんを見ながらルール説明した方がいいよ。」とアドバイスする姿が見られた。映像を見ながらお互いのアドバイスを聞くことができたので、どの場面のどんな様子を言っているのかが十分理解できていた。(写真4)

これによって、再度リハーサルしたときに、1年生は、うまく説明ができたことを2年生からほめられ、とても嬉しそうであった。



写真3 タブレットP C を使って撮影する様子



写真4 画像を見ながらアドバイスする様子

(2) 祭り当日での教師の活用

地域の人や保護者にも参加してもらい、「西瀬小秋祭り」を行った。お祭り開催中は、呼び込みや商品渡し、遊び方の説明など一人ひとりが参加するので、教師がデジタルカメラを用いて体験活動を記録した。記録にあたっては、全員の活動の様子を記憶するようにした。(写真5)



写真5 お祭りでお店屋さんをしている場面

3. 3 振り返りを共有させるためのI C T 活用

お祭り終了後に実施した振り返り活動では、お互いの気づきを出し合うように、教師が撮影した画像を電子黒板上に映した。そして、「この写真で、がんばっている人はいますか。」と質問し、どの子が頑張っているかを発表させるようにした。子どもたちは、電子黒板上でタッチペンを使って「お客さんに優しく教えています。」などと、どんなことをがんばっているかをわかりやすく説明した。

大画面に写真を出すことによって、学級全体で写真を見ることができ、さらにタッチペンを用いて大画面の写真に書き込むことでどの子に注目して発表しているかがわかり、だれがどんなことをがんばったのか学級全体で気づくことができた。また、これまでの振り返りのカードの記入では、個別支援を必要としていた子どもが、この活動では自分から進んで頑張ったところをカードに記入することができた。



写真6 がんばっている人探して説明する様子

4 まとめと課題

本実践では、低学年でのI C T 活用にスポットをあてて、単元全体を見通して、どの場面でのI C T を活用していくのか計画立てて進めるようにした。本実践でのI C T 活用によって、学級の子どもたちは、自分と友だち、今の自分と過去の自分という形で向き合うことができ、今まで気づかなかった発見を幾つもすることができたように感じる。

今後は、話し合い活動や体験活動の中で、I C T を活用した振り返り活動をさらに広げていくように、単元構成等を検討していきたい。